



嵐電「妖怪電車」

月刊

あじenda

2008年

8月



京のアジェンダ21フォーラム事務局

〒612-0031

京都市伏見区深草池ノ内町13

京エコロジセンター2F 活動支援室内

TEL: 075-647-3535

FAX: 075-647-3536

E-mail: ma21f@mbox.kyoto-inet.or.jp

開室時間: 10時～18時45分(木・日休室)

アクセス: 京阪電車「藤森」西へ徒歩5分

地下鉄・近鉄「竹田」東へ徒歩13分

市バス・京阪バス「青少年科学センター前」南へすぐ

みやこ

京のアジェンダ21フォーラム 事務局通信

月刊あじendaは当フォーラムの活動紹介を中心とした
京都発、環境関係の情報発信紙です

京のアジェンダ
21フォーラム



フォーラム設立10周年

持続可能な京都の未来像を描こう

11月 フォーラム設立10周年記念イベントを予定

持続可能な京都の実現を目指す環境
行動計画『京のアジェンダ 21』をパ
ートナーシップで推進する組織として

当フォーラムが設立されたのは、1998(平成10)年
11月23日(月・祝)で、会員数129で活動をスタート
しました。今年2008(平成20)年は、フォーラム
設立10周年の節目の年になります。現在の会員数は個人
会員255人、団体会員291団体の合計546会員
(6月30日現在)までになりました。

●かつてなく高まる持続可能な社会へ向かう機運

脱温暖化社会の実現に向けて、国や京都市が大きく方
向転換しています。フォーラム設立当時には地球温暖化
の専門家の間でのみ共有されていたレベルの温室効果ガ
ス排出削減目標が、最近では広く市民の目に触れる施策
の中に示されています。

6月15日付の『市民しんぶん(各区版)』に折込で
配布された『「環境モデル都市」京都からの発信(以下、
『京都からの発信』)』では、京都市が目指す環境モデル
都市の姿として

温室効果ガス削減中長期目標

今日まで引き継がれてきた「持続可能なまちの知恵」
を京都の市民ぐるみで活かすとともに、環境・交通・
景観政策をはじめとするあらゆる政策を統合して推進
し、2030年までに温室効果ガスを1990年比で
50%削減、2050年には大都市初の「カーボン・ゼ
ロ*都市」に挑む。

*人間の生活や活動から排出される温室効果ガスの量を
森林等の自然界が吸収できる範囲にとどめること。

との、思い切った内容が示されています。

●重要な推進基盤となる京のアジェンダ21フォーラム

『京都からの発信』の中で、当フォーラムは取組体制
などの「推進基盤」のひとつとして次のように示されて
います。

推進基盤(取組体制など)

(略)「京のアジェンダ21フォーラム」による先進
的な取組の創出と実践を進めます。

推進基盤に挙げられるパートナーシップ組織はフォー
ラムの他になく、フォーラムの重要性は大きなものとい
えるでしょう。

今月号ではp.2・p.3でワーキンググループ(WG)活
動をご紹介しますが、さまざまな主体のパートナー
シップで初めて可能となる事業や政策提言を生み出す場
であるWG活動がフォーラムにあることが、推進基盤
としての大きな役割を果たしています。

●10周年を機に、次のステップへ

フォーラムは、10周年の節目の年を機に、パートナ
ーシップでの活動推進を次のステップに飛躍させること
が期待されています。

1) 複数の主体の連携でこそなしえる取組を

企業活動WGから生まれた京都環境コミュニティ活
動(KESC)プロジェクトは、企業と地域、学校の連携
があつてこそ成り立つ取組です。他の分野においても、
このようなパートナーシップでの取組が、フォーラムに
期待されているといえるでしょう。

2) 分野横断的な総合性のある取組を

また、持続可能な社会を実現するためには、分野ごと
の取組だけでなく、たとえば経済・交通・観光・住まい
方など複数の分野にまたがって総合的に一貫性のある取
組を推進することが必要です。フォーラムには、今後は
一層、分野横断的な各主体によるパートナーシップの形
成が期待されるでしょう。

●11月に設立10周年記念イベントを開催

11月にフォーラム設立10周年記念のイベントを開
催します。広く市民・会員の皆さんと中長期的視点での
取組を具体的に共有する内容を計画中です。詳細は、あ
らためてお知らせします。

【お知らせ】フォーラムの銀行口座について【銀行口座名義変更】

このたび、都合により、当フォーラムの銀行口座の名義を変更しました。

銀行名・支店名や種別・口座番号の変更はありませんが、名義(漢字およびカナ)が変わりましたので、
年会費を納入いただく際などには、お手数ですが口座名義が下記の通りであることを今一度ご確認ください。

【銀行口座】三菱東京UFJ銀行 京都支店 普通預金 5468383

京のアジェンダ21フォーラム 代表 内藤正明

(ミヤコノアジ エンダ21フォーラム ダイヒョウ ナイトウマサキ)



フォーラムの事業や政策提言が生まれる場 ワーキンググループ (WG) に参加しよう！ 6月2日幹事会でWGを改革

「ワーキンググループ (WG)」は、フォーラムの活動方針に基づいて、会議や研修会、学習会、事業化に向けた調査研究などの具体的な活動を推進する場です。WGにはどなたでも参加でき、パートナーシップ組織としてのフォーラムの特徴がよく現れた活動の場となっています。各WGでは、市民や企業、NPO、行政、大学の研究者の方々など、さまざまな立場の人たちが共通の関心のもとに集い、活動しています。

さて、フォーラムでは、2005（平成 17）年度の検討から始まって、中長期的な視点も含めフォーラムの一層の発展のために組織の改革を進めてきました。その中で、フォーラムの事業や政策提言の多くが生まれたWGについても改革が検討されてきました。WGについては、去る6月2日に開催された2008（平成 20）年度第1回幹事会・第1回常任幹事会合同会議において、下記の変更が承認されました。たとえば、WGの改廃は2002年度（自然エネルギーWG設置）以来となりますが、今回のまとまった変更で、WG活動についてもフォーラム改革に沿って、一層の活動活発化を図る新体制のスタートとなります。

(1) 5つのWGを舞台に活動を活性化！

2008年度からは、新体制のもと、「企業活動WG」「エコツーリズムWG」「交通WG」（「環境にやさしい交通体系の創出WG」から名称を変更）「えこまつりWG」「自然エネルギーWG」の5つのWGについて活動継続します。

フォーラム改革の一つとして、活動に関わる資源（マンパワーや活動資金）の集中を図り、WG活動の一層の活発化に務めます。

なお、各WGの活動内容等は右ページの記事と今月号に同封のWG紹介チラシをご参照ください。

(2) WGコーディネーターを事務局が担当

WGにおいて、活動の取りまとめ役となるコーディネーターの役割は大変重要です。コーディネーターは、担当のWGへの大勢の方の参加を促すとともに、興味ある話題を提供する学習会などの機会を設けたり、活動の中で出されたアイデアを事業化につなげるべくメンバー同士の議論の整理を行うなど、広範囲の活動が期待されます。

これまで各WGのコーディネーターは、報酬のない中ボランティアで担われてきましたが、仕事内容・責任に対して限られた時間などの中での対応が難しくなっていました。そこで、事務局がWGコーディネーターを担当し、運営会議や初心者も参加しやすい催事（勉強会・見学会等）の開催などWGの活動活発化を図る基礎的な活動も受け持ちます。

(3) 幹事の担当WG制がスタート

フォーラムの幹事会は、およそ2ヶ月毎に開催され、フォーラムの組織としての機関決定を行います。そのメンバーである幹事について、機関決定にあたってこれまで以上にフォーラムの現場の活動を把握してもらうよう、「担当WG」制を始めます。

各幹事は担当するWGの活動の把握に努めます。WGコーディネーターは、各WGのメーリングリストの運用などを通じて、幹事に対してもWGの各種の連絡事項・活動情報を伝えます。

また、WGコーディネーターは、この担当WG制を通じて、各幹事の所属組織とフォーラムとの関係の緊密化も図ります。各幹事は、WGの活動成果が上がるよう、WGの活動、幹事会での議論、決定結果を各所属団体等に持ち帰り、各所属団体等において必要な働きかけを行います。

なお、各WGのコーディネーターと担当幹事は下表のとおりです。

表 各WGのコーディネーターと担当幹事（2008年7月1日現在）

WG	コーディネーター	担当幹事（敬称略・五十音順）
企業活動WG	事務局 小山直美	浅岡美恵、今嵐正三、奥原恒興、小幡範雄、谷口正克、津村昭夫、中川大
エコツーリズムWG	事務局 長谷川吉典	高田光治、本部正一、山内寛、山岡義明、和田政昭
交通WG	事務局 長谷川吉典	伊東真吾、石谷彰男、里見晋、杵本育生、高橋肇子、中井敏宏、丸山郁夫、文字英夫
えこまつりWG	事務局 長谷川吉典	草川健治、桑原毅、佐合真、西村仁志
自然エネルギーWG	事務局 小山直美	大島仁、田浦健朗、立木哲生、内藤正明、森井保光



参加しよう！ フォーラムの5つのワーキンググループ

フォーラムの5つのWGについて、ご紹介します。詳しい活動紹介は、今月号に同封のWG紹介チラシをご覧ください。

★企業活動 WG

中小企業向けの環境マネジメントシステム、KES・環境マネジメントシステム・スタンダードをつくり普及させました。現在は、次の段階として、中小企業も取り組めるCSR（企業の社会的責任）の取組、京都環境コミュニティ活動（KESC）プロジェクトで地域社会と結びつけた環境配慮型の企業活動を進めるWGです。

★エコツーリズム WG

歴史的観光都市・京都において、環境と調和した観光の実現に向けて、宿泊施設の環境取組の深化、観光関連各産業（宿泊・交通・旅行業・出版業・他関連サービス業）の環境視点での連携実現のための調査研究、ガイドツアー事業の創出などに取り組むWGです。

★交通 WG

持続可能な社会「歩くまち・京都」の実現に向けた、環境にやさしい交通体系の創出を課題とし、自転車と公共交通機関の活用を中心に、実態調査、京都市が実施する社会実験への参画、まちづくりをはじめ交通と関連するさまざまな分野と連携した施策の提言などの活動に取り組むWGです。

★えこまつり WG

持続可能な社会の中での祭り・イベントのあり方を考え、リユース食器の貸出（現在はWGメンバーのNPO法人 ecotone が事業化）などの実践活動と、リーフレット「はじめよう えこまつり」などを用いた交通手段・ごみの減量・省エネルギーなどについての主催者・参加者への環境教育に取り組むWGです。

★自然エネルギー WG

京都の特長を生かした地域協働型の自然エネルギー普及の仕組づくりを目指し、情報交換や協働のための場づくりを行うとともに、現在、「京グリーン電力制度」として試行中の太陽光発電の普及の仕組みの拡大に取り組むWGです。

まだWG活動を経験されていないフォーラム会員の皆さまは、ぜひこの機会に興味をお持ちの分野のWG活動を覗いてみてはいかがでしょうか。活動に参加したい、あるいは参加する前に一度WG活動を見学してみたい、という方は、お気軽にフォーラム事務局までご連絡ください（連絡先はp.1 題字右をご覧ください）。



助成金案内 《環境取組を対象とした助成金情報を紹介します》

京都市の助成制度

「京都市中小事業者省エネ総合サポート事業」

申込期間：2008年7月14日～2009年2月27日

京都市では、中小規模事業者の省エネ対策を支援するために、エネルギーに関する「専門相談員の派遣」、「省エネ診断の実施」、そして「省エネ設備導入に係る補助」を内容とする「京都市中小事業者省エネ総合サポート事業」を新たに創設し、希望事業者を募集しています。

●「京都市中小事業者省エネ総合サポート事業」概要

STEP1 「省エネ相談」

エネルギーに関する専門知識を有する「省エネ相談員」が事業所に出向き、エネルギー原単位評価をはじめ、省エネ対策や環境マネジメント等に関する提案・助言を行います。

STEP2 「省エネ診断」

「省エネ相談」の結果から、省エネに関する専門コンサルタント業者を派遣することが適当と判断される事業所に対しては、具体的なエネルギー使用状況等を調査・診断し、改善に向けた省エネ対策の提案を行う「省エネ診断」を実施します。

STEP3 「省エネ設備導入補助金」

「省エネ診断」で提案された省エネ対策のうち、省エネ効果が高い設備の導入等を実施される事業者には、その経費の3分の1を、本市の予算範囲内で補助（上限300万円）します。

●対象事業者

京都市内に事業所を所有する事業者のうち、次のいずれかに該当する事業者

- 1) 中小企業基本法第2条第1項に定める中小企業者
- 2) 常時使用する従業員が100人以下の医療法人
- 3) 常時使用する従業員が100人以下の社会福祉法人

●申込期間

2008年7月14日(月)～2009年2月27日(金)

●申込方法

「省エネ相談申込書」（地球温暖化対策室ウェブサイト等で配布）に記入し、郵送、FAX、メールのいずれかで提出。

●送付先

（郵送）〒604-8006 京都市中京区河原町通御池下
下丸屋町394番地 Y・J・Kビル3階
京都市総合企画局地球温暖化対策室 事業者担当宛
（TEL）075-211-9281
（FAX）075-211-9286
（メール）ge@city.kyoto.jp



★連載★ 京の交通交流ひろば出張所 第4回 未来の路線バス利用客をつかむ取組 「市バスecoサマー」と「スルッとKANSAIバスまつり」

事務局コーディネーターの長谷川古典です。連載「京の交通交流ひろば出張所」第4回をお届けします。「京の交通交流ひろば」は、“環境にやさしい交通体系の創出”を目指して活動している交通WGのウェブサイト※で、環境を主な視点にしながら、京都の交通に関する様々な情報を紹介しています。本連載では、その中から、広くフォーラム会員の皆様に興味深く見ていただけるようなトピックを毎月紹介していきたいと思います。※<http://traffic.ifdef.jp/>

●子どものうちから路線バスに親しんでもらう取組

親がマイカー族の家庭では、子どもが路線バスに乗る経験が限られます。そこをなんとかして、子どものうちに親と一緒に路線バスに親しんでもらおう、そして今の子どもが大人になったときに路線バスの利用客になってもらおう、というバス事業者による取組が行われています。今回は、そういう取組を2つご紹介します。

●「市バスeco（エコ）サマー」

今年、2008年は京都の市バスが開業して80周年の節目の年です。この記念事業のメインイベントとして、学校の夏休み期間にあたる7月19日から8月31日までの期間、市バスを保護者同伴で利用するとき小学生2人までの小児運賃を無料とする「市バスecoサマー」が実施されています。

保護者の運賃支払い方法は問わず、降車時に運転士に「エコサマー」と告げることで、同伴の小学生2名までの市バス小児運賃が無料になります。

これは、たいへん戦略的な取組といえるでしょう。ガソリン価格が高騰している今のタイミングではとくに、マイカーに子どもを乗せて外出することと比べ、一日乗車券（500円）や通勤フリー定期券なども使えて大人運賃のみで市バスを利用できる「市バスecoサマー」は金銭的に魅力ある提案です。

また、子どもたちに夏休みの楽しい外出の思い出をつ

くってもらうときに、「保護者と市バスで出かけた」という要素が加わることは、未来の利用客に子どものときから市バスに親しんでもらう意味があるといえるでしょう。

7月18日付の発表によると、京都の市バス事業は1日平均利用客数が前年度より4千人増加し、5期連続の黒字決算となりました。増客増収と経費節減で経営内容が改善される中で、長期的・戦略的視点での積極策として「市バスecoサマー」が実施されています。皆さまもぜひ、この機会にお子様を連れて市バスでお出かけください。

●「スルッとKANSAIバスまつり」

9月20日の「バスの日」にちなんで、毎年「スルッとKANSAIバスまつり」が開催されています。

会場には20社局を超える各事業者のバスがずらりと並び、各社局の展示車両の見学やステージでの賞品のあたるクイズ、グッズ販売などが行われるイベントで、会場はバスファンばかりでなく、子供連れの一一般の来場者で大いににぎわいます。

8回目となる今年の「スルッとKANSAIバスまつり」は9月14日（日）の開催で、会場は姫路城（東御屋敷跡公園と姫山駐車場）だそうです。こちらも、お子様とご一緒にお出かけになってみてはいかがでしょうか。



（広報ポスター）

【市バスecoサマー】

（青少年科学センター前にて）



（会場）



【スルッとKANSAIバスまつり】

（バスを背景に記念撮影）



事務局短信 フォーラム事務局では、8月1日より新しい事務局長を迎えることになりました。フォーラム専任の事務局長ということで、これまで以上に事務局一丸となってフォーラム活動を推進していきたいと思っています。皆さまのお力添えをよろしくお願いいたします。（竹村光世）／このところ仕事が溜り気味。それに伴い机の上も周りもどんどん汚くなっています。8月までに、「目指せ、クリアデスク！」（小山直美）／本格的に暑くなってきました。暑いのは苦手です。外に出るとアスファルト舗装の照り返しがつらいですが、もっと街中いたるところ青々とした木陰があって舗装も透水性にならないかな？と思います。（長谷川古典）